

令和元年5月31日
四国電力株式会社

バーチャルパワープラント（VPP）構築実証事業への参画について

当社では、IoTやAIなど新技術の進展・普及をビジネスチャンスと捉え、その一分野として、これらを活用したバーチャルパワープラント（VPP）事業に関する検討を進めております。

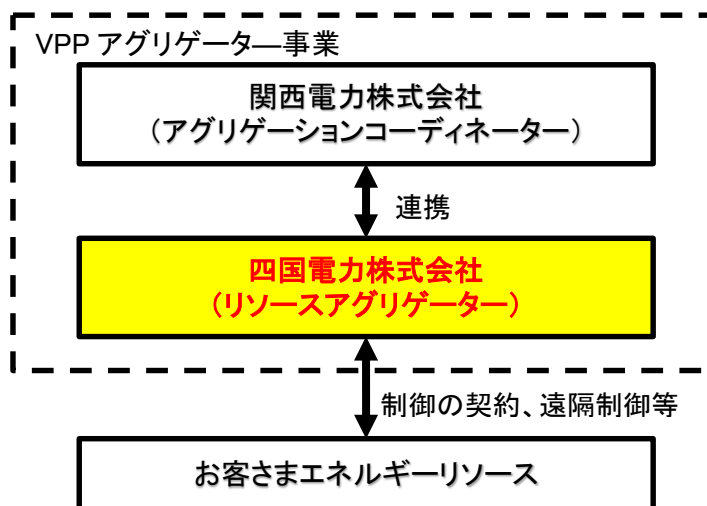
その一環として、当社は本年4月、経済産業省が一般社団法人環境共創イニシアチブ^(※)を通じて公募するVPP実証事業「平成31年度需要家側エネルギーリソースを活用したバーチャルパワープラント構築実証事業費補助金」のうち「VPPアグリゲーター事業」への参画を申請しておりましたが、昨日、採択されました。

本実証事業において当社は、関西電力株式会社を幹事会社とするコンソーシアムに加わり、同社と連携しながら、四国地域のお客さまのエネルギーリソース（本件では産業用蓄電池）を遠隔で充放電制御・統合管理を行うこととしております。

こうしたVPPに関する取り組みは、需要側の制御による電力の需給運用安定化に寄与し得るものであり、当社としては、今回の実証事業を通じて知見・ノウハウを得ながら、様々なパートナーとも連携してエネルギーリソースの更なる拡大を図りつつ、VPPの実現に向けた検討を着実に進めてまいります。

※ 環境・エネルギー制約や経済的社会的環境の変化から生じる課題解決に向け、様々な事業者等の連携による技術革新と市場創出を主導することを目的とした非営利法人。平成23年設立。

(参考1) 当社参画体制



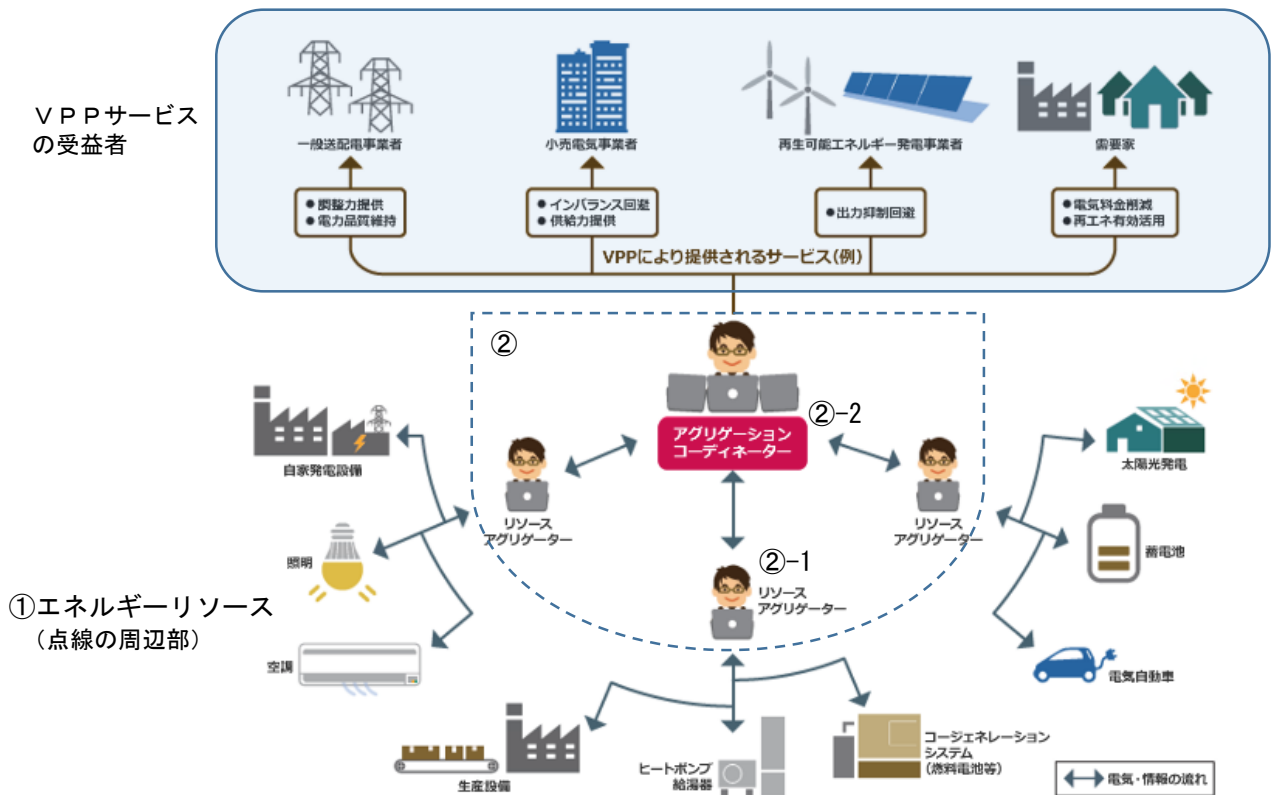
(参考2) 今後の当社の予定

令和元年 7～11月	システム構築
令和元年12月 ～令和2年2月	実証試験
令和2年 2月	事業実績報告

(別紙1) バーチャルパワープラント (VPP : 仮想発電所) とは

- ・工場や家庭などが所有する蓄電池・発電設備などを高度なエネルギーマネジメント技術により統合制御し、あたかも一つの発電所(仮想発電所:バーチャルパワープラント)のように機能させることで、電力の需給調整に活用する仕組みのこと。
- ・これまでの電力システムは、需要に合わせて供給を行う形態が採られていたが、供給側では発電を調整できない再エネの拡大、需要側では蓄電池等の普及、一方でIoTの登場など、電気事業を巡る環境変化を受け、需要側の制御による効率的な電力供給システム構築への期待が高まっている。
- ・VPPは、負荷平準化による電力設備コストの低減、再エネ供給過剰の吸収や電力不足時の需要カットによる需給バランス確保などに効果があるとされている。

(VPPのイメージ)



資源エネルギー庁HPに基づき作成

(用語解説)

- ①エネルギーリソース：工場や家庭などが所有する蓄電池・電気自動車・発電設備・電力設備など
- ②アグリゲーター：エネルギーリソースを統合制御する事業者
 - ②-1 リソースアグリゲーター：エネルギーリソースを直接統合制御する事業者
 - ②-2 アグリゲーションコーディネーター：リソースアグリゲーターが統合制御した電力を束ね、電気事業者等の受益者へVPPサービスを提供する事業者

(別紙2) 本実証事業で行う蓄電池充放電制御のイメージ

